

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
竹原市立竹原西小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	1	2	1	2	1	1	8	2	10

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
算数	5	1	5	5	
算数	6	1	5	5	
理科	5	1	3	3	
理科	6	1	3	3	

授業時数 計 16 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
図画工作	5	1	1.4	1.4	
書写	5	1	1	1	
書写	6	1	1	1	

授業時数 計 3.4 (b)

授業時数 合計 19.4 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1	
6年 1組 (担任: A)	A	推進	A	推進	推進	専科	専科	専科	A	B	A	A	A
教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1	
5年 1組 (担任: B)	B	推進	A	推進	推進	専科	推進	専科	B	B	B	B	B

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数	授業時数の合計
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
5-1	24	B	6-1	外国語	2	2	12.6	14.6
6-1	29	A	5-1	社会	2.9	2.9	13.6	16.5

5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉

- ① ・教科担任制推進教員は、担当した教科において専門性を発揮し、児童が興味・関心を持つような導入や意欲的に取り組むことのできる指導の工夫を行った。



・担当教科の家庭学習は教科担任制推進教員が採点や確認を行った。内容を丁寧に把握することで個々の課題を分析し、授業における指導内容に反映させるとともに個別の学力補充においても取組内容に反映させた。

- ② ・推進教員が5、6年の副担任を兼ねており、学級担任や教育相談コーディネーターと常に情報交換を行い、児童の課題を共有した。

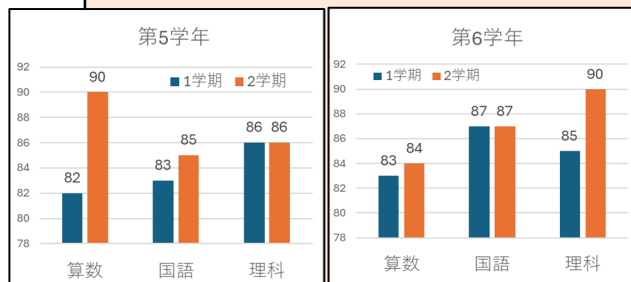
- ③ ・児童は日常的にいろいろな教員の授業を受けることができた。
・教科担任制の取組について中学校区で連携した。

- ④ ・学級担任の持ち時間数が軽減されたことにより、空き時間に教材研究や授業準備、分掌業務などを行うことができた。

- ⑤ ・各教科担任が連携し、家庭学習にタブレット端末を活用した。

〈成果〉

- ① ・2学期末テスト正答率(目標値80)第5、6学年において、目標値と比較し以下の数値となった。
【第5学年】算数+10、国語+5、理科+6
【第6学年】算数+4、国語+7、理科+10
3つの教科において目標値を上回った。



- ・児童アンケート結果
「勉強は好きです」肯定的回答
【第5学年】算数:83% 国語:78% 理科:100%
【第6学年】算数:61% 国語:57% 理科:93%
「授業はよく分かります」肯定的回答
【第5学年】算数:83% 国語:89% 理科:100%
【第6学年】算数:92% 国語:96% 理科:96%

- ② ・教育相談コーディネーターとの連携で個々の課題を把握し、個に応じた支援を行うことができた。
・課題や支援の方向性を共有しながら日常的に複数の教員で関わることにより児童理解がより深まった。
・複数の教員がいろいろな場面で児童の不安や悩みをキャッチすることにより問題行動に対する未然防止・早期対応ができた。


- ③ ・児童アンケート結果
「中学校での教科担任制に対して不安がなくなった」
肯定的回答96%(1学期は93%)

- ④ ・教師アンケート結果
「指導教科数の減少により教材研究の時間確保等につながっている」
肯定的回答100%

- ⑤ ・児童のつまずきから明らかになった課題を基に指導の工夫を行うことができた。

〈課題〉	
①	<p>・推進教員は休憩時間に個別指導を行わなければならないため時間に制約があり十分な取組が行いにくい。</p> <p>・第6学年は「勉強が好き」と回答した児童の割合が1学期より低下した。(算数67%→61%、国語68%→57%)学習内容が難しくなり、基礎的な学力が定着していない児童にとって授業の中で「できた」「わかった」と達成感を味わうことができる経験が少なくなっているためと考える。</p>
②	<p>・第5・6学年の問題行動件数 R6:4件→R7:9件</p> <p>・児童間トラブルなどの問題では教員の気付く些細な違和感が問題の早期発見につながるため教員間の情報交換や情報共有が重要であるが、そのための時間の確保が難しい。</p>



〈対策〉	
①	<p>・学級担任と役割を分担し個別指導の時間を確保する等の工夫を行う。</p> <p>・基礎学力の定着を図るため、2学期以降チャレンジタイム(帯タイム)を設定した。今後も継続し基礎学力の定着を図る。</p>
	
②	<p>・問題行動は数としては増加したが、複数の教員が児童を見ることによりトラブルを早期に発見することができ、問題が大きくならないうちに対応できている。また、事案への対応も複数で話を聞くなど児童の心に寄り添い丁寧に対応ができています。今後も継続して多面的に児童理解を図り、規範意識の醸成につながる指導を継続する。</p> <p>・生徒指導部会など校内の部会と連携して時間設定を工夫し、短時間でより有効な情報交換を行うことができるようにする。</p>